

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 花みずき

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 21 年 2 月 20 日

記録者氏名 菱田 裕子、谷口 舞

記録年月日 平成 21 年 2 月 10 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人はもとより事業所も地域住民の一員です。地域に溶け込みその一員として役割を果たしたいと職員全員で考えます。	○	地域住民との交流を一つ加えて理解を深めて実践してゆきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスの提供場面や、関わりの中で振り返りながら話し合ったり、カンファレンスの中で意見を確認したりしています。	○	施設独自の理念に向かって、日々取り組み実践してゆきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時等にお伝えしたり、地域住民の方々には、グループホーム便りを発行したりしています。	○	グループホーム便りの発行を今後も継続してゆき、住民の方々に広く理解を求めていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	団地内を毎朝散歩する中で、近隣の方たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。回覧板を持って来て下さる。不要になった紙オムツをいただいたりしています。	○	わずかではあるが近隣の方々のお付き合いが出来てくるのではないかと期待が芽ばえて来ているように思います。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として団地自治会に加入。区費も払っています。地域の中学生がボランティアとして体験学習に来て下さいました。	○	地域での行事や老人会など全くない地域でありますので、交流は困難していますが、もう一歩ふみ出して事業所からの働きかけ必要と考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	全国グループホーム協会の実習生の受け入れも 行っています。 認知症の人と家族の会にも参加し意見も述べさせ ていただいています。	○	今後共、ホームとしてできることをできるだけ引 き受けて、地域の中に少しずつ溶け込むようにし てゆきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員全員で話し合い伝える。 改善に向けて、検討して実践できるようにする。	○	まだまだ十分とは言えないので今後も評価に基い た具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	現在取り組んでいる事の内容について報告し意見 をいただいています。 検討事項についても、検討中や出来なかった件に ついて報告などをしてしています。	○	ご家族の参加もお願いして、参加下さることもあ る。他会よりも出席を願えるようになったので継 続したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	栄養士の方のことで相談に行ったり、利用者様の 入浴中の出来事について相談に行くなど、少しづ つ利用・意見をいただいています。	○	特別な機会を持ちたいと考えて、未だに実行され ていません。再度、考えて実行したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースを経験。職員全員への説 明はできていない。(一部の職員)今後、勉強会 を開き職員の理解を深めるように考えている。	○	一度経験しましたので、今後は職員間の勉強を行 いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	高知県主催による研修会に毎年参加して、勉強さ れた事をホーム会の中で話し合い理解を深めるよ うにしている。	○	拘束・虐待をなくす方向で皆さんが互いに話し 合って、見逃さないよう対応してゆく。倫理観を 高める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明している。利用者の状態変化により契約を解除する場合は家族や病院側と本人も含め相談をしています。	○	時間を取って説明してゆくことを続ける。契約当初は家族との連絡を密に取り、不安の解消に努めてゆきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、思いを察する努力はしているが、もっと会議の中にもとりいれて意見統一を図りたい。	○	個々の訴えや意見を希望について拝聴して、ケア会の中で検討することを継続したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況やホームの事など、話をする。毎月担当者の手紙で報告することもある。金銭管理は出納伝票に記入、サインをもらっています。	○	健康状態について、報告（電話・手紙・訪問の時）金銭管理については遠方の方へ報告が落ちていたりするので、そのような事がないよう注意してゆく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々家族には、機会をとらえて繰り返し説明をしています。運営推進会議の中でも相談させてもらっています。	○	外部の相談員を入れてもらうことを考えたが、運営推進会議の中でもその事を相談したが組織的にはそのような組織はないといわれる。今後はアンケートなど無記名でお願いしてはと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見は聞くように心掛けていますが言い難い事も多いだろうと考えますので、把握しきれいていないのではと考えます。	○	個人的に面接を行うなど、努力していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、必要に応じて、柔軟に配置を考えています。利用者の自由な暮らしに沿った配置としている。		家族の要望、利用者様のスケジュール、暮らし方に合わせて柔軟に配置を考えてゆく。リスクマネジメントにも必要と考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者やご家族への信頼関係を築くためにも、職員は固定化して、担当職員を決めて尚一層信頼関係が築けるようにしています。やむをえず担当者が変更する場合は利用者や家族への挨拶は欠かさずコミュニケーションを図る努力をする。</p>	○	<p>今後も利用者が馴染みの職員と一緒に支援を受け、互いに心を開いて交わることができるように、異動や離職は避けたいと考えている。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の内容を全体会の中で報告してもらったり全体会の中で、利用者の状態に合わせた勉強会を行い学んでいます。</p>	○	<p>全体会の中で研修を更に多く取り入れて、職員の育成に努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国認知症グループホーム協会や高知県宅老所、グループホーム連絡会の会員として会の運営に参加し、研修を計画する等しています。積極的に職員も参加する等しています。積極的に職員も参加するようにしています。</p>	○	<p>宅老所・グループホーム連絡会のお手伝いは継続してゆきたい。 相互訪問等、他施設に働きかけて取り組んでみたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員の悩みを把握するように努めているつもりではあるが、十分思いを吐き出せているとは考えていません。工夫も足りないのではと考えています。</p>	○	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>労働基準局や労務士さんに入って頂き、労働条件を見直し整えました。健康診断の実施も致しました。職員の資格取得に対して支援を行い、本人の意向を受け入れながら、職場で活かしてゆくよう考えています。</p>	○	<p>今後も資格取得に力を入れてゆきたいと考えている。個人的に面談など行い、把握してゆきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で生活状態を知り、利用者の不安を理解して少しでも柔らげることができるよう信頼関係を築いていけるよう努力している。	○	事前の面接、家族との話し合いなど十分な時間を要して、安心と信頼の得られるように努めてゆきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をつまみ食い聞いて事業所として対応ができるか話し合っ、次の段階へと話が転回できるようにしている。	○	家族様との話を傾聴して要望や、不安の除去など話しやすい雰囲気を整え対応するよう努める。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話の内容によっては他のサービスを利用することを勧め、出来る限り相談にのり支援するよう努めている。	○	対応面からの相談内容に傾聴できればと考えます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できれば本人と家族と一緒に来てもらって短時間でもすごしてもらって、抵抗、不安なく利用していただけるように支援します。職員も必ず事前面接します。	○	これまでと同様、入居者が施設や入院などされている場合には、何度か見舞いながらなじんでいただき、退所、退院の場合はお迎えに出向いたりすることを続けたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを持って支援にあたることに努めている。支援する側という意識を持たず、共に学び合うことで成長してゆけるのだという考えを持ち合うように努めています。	○	職員はもっと家族との対話を多くすることを望む。又、指導してゆくようにする。家族と同等の思いを持って支援しないといけないと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちも考えて、日々の暮らしの出来事や健康のことなど気づいた情報はお伝えするなど家族と一緒に支えているという関係を続けている。	○	全員の職員が同じ気持ちを持って接することができるように努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時、一緒に散歩に出掛けることや行事に家族を誘ったりして関係が希薄にならないようにしている。外出や外泊を進めてみたりすることや関係を継続するように努めている。	○	いただいた手紙の返事は書面で、あるいは電話でお答えするように喜びを直ぐ伝えるようにしている。 外出、外泊も必要なこととして応じている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に送り迎えをする。昔からの信仰である協会に友達に会いに行く。自分の家の様子を見る為に同行したりと、馴染みの人や場所との関係が保てるようにしている。	○	美容院送迎は続けて行ってゆく。遠出になっても信仰協会へのお出掛けは継続できるように、ご姉妹にもお願いしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいかず混乱する場合など、まだまだ調整に難しい職員もおり、十分な対応ができていないといえない。	○	弱い方に対する利用者様の対応が激しい場合がある。そんな時、弱い方のたてになることも必要だと考える。皆さんに平等に声かけをする。一緒に話をする等して対応するようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所や入院などされて、移られた方のお見舞いや訪問は心掛けていますが、その内いけず、関係が切れてしまう状況にあります。	○	何時までも気軽に話のできる間柄でありたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情などから推察しています。確認の困難な方には、ご家族や関係の方から聞き取っています。	○ 何か食べたいものはありませんかと聞いても別れないと言われる。もっと別の問いかけでないといけないようだ。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の方、又、ご兄弟の方々などから、時間を掛けて聞いています。	○ なぜ背景を知る必要があるのか説明をする。本人のケアのために活かすことを目的とすること。この際、プライバシーは十分注意をする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の行動パターンリズムを把握するように話し合う。何かできることはないか、皆んなで考えてケアに生かすよう努めています。	○ 何ができて何ができないのかを見極めて、できることに視点をあわせ、自分で行うことを支援したりして、その人全体の把握に努めるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意見を聞いて介護計画を作成しています。	○ アセスメントを活かして計画作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認して、ご家族の要望を取り入れ、見直しや、状態が変化すれば検討するようにしている。	○ ケアの内容の見直し、きめ細かいケア計画の作成をしないとイケないと考えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体状況を記録、暮らしの様子等記載して、勤務に付く前に状況の確認を行うようにしている。 個々のケア記録の中や職員より情報を得て計画に生かしている。	○	介護記録の内容にまだまだ不足がある日々の様子、ケアの実践、職員の気づきなど大切な部分の記録が弱い。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間健康管理体制を活かして、利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活を継続できるように支援している。終末期の対応も考えている。		今後も利用者様の健康管理に対しましては万全を期したいと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域との様々な接点を見出すようにボランティアへの協力を呼びかけている最中です。周辺施設への働きかけも考えていますが、まだ実現していません。	○	今後課題である。民生委員と連絡を取り合って、協力を得るよう働きかけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問美容サービスを利用してもらっている。その他のサービスや生活支援については検討中です。	○	どのような地域の中にサービスがあるのか勉強し対応を考える。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	宿毛市社協では権利擁護支援は行われてないということで、中村社協に相談、協働するなど連携はとれている。 ボランティアの情勢など、周辺情報を得たりと情報交換している。	○	周辺の老人会による行事等に参加させていただけないか、包括支援センターの力を借りたが受け入れられなかった。今後ホームの理解など啓蒙が必要かもしれません。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	ご家族の希望を取り入れて、前医のかかりつけ医を選択してゆくことは、これからも継続してゆこうと考えています。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	聖ヶ丘病院、特に中では認知症病棟との連携を密にしている。カンファレンスに同席したりして情報の交換をしている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	様々な病院との連携がうまくいくように看護職の方々と気軽に相談、助言をいただけるように努める。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医師の治療方針を確認し、早期の退院への協力や説明、相談を受ける努力をする。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルに対する用意をこれからしてゆこうと考えています。医師との詰めた話し合い、その他。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	事業所としてどこまでできるのか。職員の教育、対応、かかりつけ医との連携。今後避けられないことの一つと考えていますので、検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らし方、生活環境が失われないよう、支援内容や注意点など細かなところまで情報提供する。</p>	<p>○</p> <p>十分な情報交換、情報提供に取り組んでいる。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ホーム内研修を行い、職員の意識向上を図るとともに、利用者様のプライバシーを損ねない対応の徹底。</p>	<p>○</p> <p>プライバシーを損ねないような言葉かけが、職員一人ひとり不十分なのではないかなと思います。徹底したい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員がすべて決めるような事はせず、利用者様が自己決定できるような場を作る。食事メニューを決めて頂くことができていない。</p>	<p>○</p> <p>今、何の食材があるかなど利用者様に伝え、メニューも考えて頂けるよう配慮したい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れは決まっているが、一人ひとりの体調や、気分に合わせて、個別にあった支援を行っている。</p>	<p>○</p> <p>一人ひとりの体調を把握し、個別にあった支援に取り組んでいる。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人様の馴染みの美容院で2～3ヶ月に1度、本人の希望に合わせたカットやパーマをしている。</p>	<p>○</p> <p>本人様の望む店に行けるよう努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	調理を一緒に行っている職員と、職員だけで行ってしまう方がおり、徹底していきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	希望される方の嗜好はなるべく取り入れているが、自ら言われない方の嗜好についてはまだ取り入れることができていない。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	声かけ、トイレ誘導は取り決めている。夜間、オムツ使用の方も日中は、はくパンツでトイレ誘導を実施している。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	基本的には毎日入りたい方は入って頂いているが、その日の状況により、介助が必要な方は入って頂けない日がある。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	取り組めており、夜間、覚醒された方でも、温かいお茶を一緒に飲みながら話を聞いていると自ら入眠される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	職員と一緒に活動して頂ける方が決まっており、職員も他の利用者様力を活かした役割など探すことができていない。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額は本人で所持し、管理されている。外出帰りに自分の好むおやつを買って帰られたりしている。	○	本人で持たれている方もいるが、実際、自分の所持しているお金で買い物に出られる方は少ない。一人ひとりの希望に添えるよう支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩が日課となっている以外にも、午後からアクティビティーの時間にも、買い物やドライブに出かけている。	○	散歩だけでなく、車に乗ってドライブに行ったり、花を見に行ったりと外出の機会をとっている。希望には全てそうすることができていない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様が行きたいと思う遠くの場所への外出は、計画を立てて行う。家族とともに出かける方もおられる。	○	月刊行事で遠出をしたり、家族様の協力のもと、外出される方もいる。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を欠かさず行い、利用者様の希望に応じて、日常的に電話をかけられるよう支援している。	○	自ら電話をかけたいと言われる方が少ない。職員が利用者様の気持ちを把握し支援できるようしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは定めておらず、仕事帰り、ご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来て頂けるようにしている。	○	ご家族様も時間を気にされないう、いつでも訪ねて来て頂けるよう声かけし、対応できるよう配慮。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修をホーム内で行い、外部の研修にも参加する。 職員の共有認識を図っている。	○	言葉の拘束がまだ現場ではあるように考えられる。職員同士の意識づけに取り組む。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>利用者様が外にでられた時、職員も付いていくことを基本としているが、状況により行けない時の声のかけ方、対応のしかたの徹底。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>居室で過ごされている方には、訪室し、声かけ、お話しするなどして、安全確認のため様子をうかがう。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>その都度、職員間で話し合いをし、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>ヒヤリハットの記録はできているが、その後の話し合い、対策が全ての職員ができているとは言えない。取り組めていない。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>全ての職員が訓練を定期的に行えるよう取り組む。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>消防署の協力のもと、訓練にとりくめている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	○	<p>リスクが高くなることを職員も十分に把握し、注意深く観察、介助をしていけるよう取り組みたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	<p>職員間での情報交換を徹底し、対応にあたることはできているが、全てを記録することができていない。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>薬の変更や用量に変化がある場合は注意しているが、変更のない薬についての目的や副作用については、しっかり把握できていない。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>身体を動かす機会として、散歩は毎日取り入れている。アクティビティの時間にも体操をとり入れている。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	<p>声かけをしても、時々できていない利用者様がいる。声のかけ方、タイミングを把握し職員が徹底して取り組む。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>水分量のチェックをし、記録し残しているが、水分確保できていない人の対策ができておらず、ただチェックをしているだけになっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、予防、対策に努めている。利用者及び家族の同意をいただき職員共にインフルエンザ予防接種をうけている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用。	○	予防対策に努めることのできているものと、できていないものがある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、冷凍庫の点検を掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認する。	○	食材管理をする職員を位置づけ、管理は出来ている。調理用具の衛生管理はまだ完全には取り組んでいない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所までの案内板を掲示し、玄関先には、休憩をとれるようなベンチを設置している。	○	玄関先に花などを植え、明るい雰囲気玄関作りに取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快な音が出ないよう配慮はできていない。壁に折り紙で飾りつけをしたり、生け花などで季節感を取り入れている。	○	職員の足音や声のトーンなど、利用者様にとっては不快であると思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる場合は居室のみになってしまっている。ホールでは、他の利用者様の視線もある。3人掛けソファを置き、気の合う者同士で話をされたりしている。	○	ホールを居心地のよい居場所にできるような雰囲気づくりに取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みのある品、写真、使いなれた物が部屋に持 ちこまれ、利用者様の居心地のよさに配慮してい る。		お位牌を持ちこまれている方や、家族の写真を飾 るなどし、居心地のよい居室の配慮をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	冷暖房は、利用者様の様子に注意し、調節するよ うにしている。トイレには換気扇と消臭剤で悪臭 が出ない工夫をしている。	○	職員の体熱に合わせてしまっている時がありま す。もう少し、利用者様の観察が必要。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、居住環境が適してい るかを見直し、安全確保と自立の配慮をしてい る。	○	配慮はしているが、実際に安全であるかは、日々 変わるので、日々の取り組みが必要。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者様に混乱や失敗が生じた場合は、その都 度、カンファレンスを行い職員一同で話し合い、 その結果を試みている。試みてもその都度結果を 残せていない。	○	カンファレンスによって試みるも、その結果、そ れによって生じた変化など、記録に残すことがで きておらず、継続できていないことも多い。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑のスペースを確保し、利用者様が楽しめる環境 作りをしている。	○	畑を作ることはできたが、その他の外回りなどを 活用することができていない。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・午後より行うアクティビティ・・・利用者様と職員で体を使ったり、脳を使った遊びをして楽しんでいます。
- ・月に1度の手紙・・・・・・・・・・月に1度、家族様へ利用者様の1ヶ月の様子を書いた手紙を送っています。
- ・毎朝の散歩・・・・・・・・・・利用者様の状態に応じて、コースや距離数を変更。一対一で対応の必要な方もいます。
- ・健康管理・・・・・・・・・・健康の把握。24時間対応できることにより、早期の対応や見極めもできる。